

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立海青中学校
1 前年度 評価結果の概要	・自主的な生徒会活動が活発になったことや、全職員が共通理解し、組織的な生徒指導の実践、開明的な生徒指導を行ったことで、問題行動は減少したが、不登校生徒や支援が必要な生徒への対応等が課題である。 ・3年間を見通した、学力向上に向けての授業改善や具体的な取組が必要である。

2 学校教育目標	「海青中を誇りに思う生徒の育成」～優しさあふれる学校に～
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	①授業改善を図り、自ら学ぶ生徒の育成 ②自分から挨拶ができる生徒の育成 ③安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 ④ボランティア精神にあふれた生徒の育成 ⑤部活動の活性化
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・個に応じた学習を進め、学習内容の定着を図る。	○(学校独自成果指標・任意) ・学び合いやICTを活用した学習を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる生徒を80%以上にする。	・グループ活動やICTを活用した学習活動を半分以上の授業で実践する。	B	・グループ活動による学び合い活動は、積極的に取り入れることができています。しかしながら、タブレット端末の活用には課題が見られるため、校内研修等を充実させる必要がある。	A	・年間を通してグループ活動による学び合い活動を取り入れることができた。タブレット端末については、ICT担当やICT支援員の支援を受けながら活用を進めている。	A	・子どもたちは落ち着いて授業に取り組むことができています。各学級の雰囲気も良かった。ICTを活用している授業が多くみられるようになっている。	・教務主任 ・学力向上コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を70%以上にする。	・定期的なGWTやエンカウンター、アサーションを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ・ボランティア活動を活性化させる。	A	・学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合は、92.2%と高くなっている。特に学校行事や生徒会活動には意欲的に取り組んでいる生徒が多い。今後も継続的に支援をしていく。	A	・学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合は、最終的に92.5%と高かった。特に生徒会を中心に、生徒が自主的に各活動に取り組むことができています。	A	・学校行事、生徒会活動、係活動等に9割以上の生徒が積極的に取り組んでいるため、今後も継続した取り組みを期待している。	・研究主任 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと答える生徒の割合を80%以上にする。	・年2回のhyper-QUの実施の分析・考察を行う。 ・いじめアンケートや心の健康アンケート、日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。	A	・学校が楽しいと答える生徒の割合は、96.1%と非常に高くなっている。しかしながら、不登校生徒・不登校傾向の生徒もいるため、家庭と連携し、個に応じた支援をしていく必要がある。	A	・学校が楽しいと答えた生徒の割合は、最終的に87.5%であった。中間評価よりやや下がっているが、9割近くの生徒が学校生活を前向きに送ることができていますと答えていた。今後も不登校生徒の支援は継続していく必要がある。	A	・約9割の生徒が学校生活を前向きに送ることができているため、日頃の取り組みを評価することができる。不登校の生徒に対しては、今後も丁寧な対応を行ってほしい。	・生徒指導主事 ・各学年主任
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・全ての教科や学校行事を通してキャリア教育を充実させ、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	C	・将来の夢や目標を持っていると肯定的な回答をした生徒の割合は、81.6%となっている。子どもたちが、夢や目標を持って学校生活を送れるよう、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。	B	・将来の夢や目標を持っていると肯定的な回答をした生徒の割合は、最終的に73.3%であった。今後も夢や目標を持って学校生活を送れるよう、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。	B	・子どもたちが夢や目標を持って学校生活を送ってくれるようキャリア教育の推進を期待している。	・教務主任 ・進路指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	⑥「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。	A	・健康のために食事は取れていると答えた生徒は、95.5%となっている。今後も家庭と連携し、食育の充実を図り、100%を目指していく。	A	・「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると肯定的に答えた生徒は、最終的に90%であった。今後も家庭と連携し、100%を目指していく。	A	・家庭の協力が不可欠なため、今後も啓発活動を行ってほしい。	・食育担当教員 ・家庭科担当教員 ・養護教諭
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日の定時退勤日の設定。 ・週二日の部活動休養日の設定。 ・学校閉庁日(8/13～8/15)の設定。	D	・週二日の部活動休養日は、ほぼ達成できている。しかし、平日の時間外勤務の時間が長い職員が多いため、改善を図っていく必要がある。	B	・週二日の部活動休養日は、達成できている。部活動がない日は、退勤時間も早くなっている職員が増加した。	B	・生徒数が減っているため、部活動についても何か手立てを考えていく必要があるのではないかと。	・管理職
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導・教育相談の充実	○生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ○個に応じた支援の推進	○自分のことが好きだと答える生徒の割合を70%以上にする。 ○先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を75%以上にする。	・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ・学校教育目標を意識し、「みんなが楽しいとは？」ということを生徒に問いながら、全職員で、生徒同士、生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。	C	・自分のことが好きだと答えた生徒の割合は、64.2%と低いため、今後も自己肯定感を高めるための支援が必要である。また、先生に困ったことや悩みを相談できると答えた生徒は、80.5%であった。	B	・自分のことが好きだと答えた生徒の割合は、最終的に65.8%であった。また、先生に困ったことや悩みを相談できると答えた生徒は、最終的に75.8%であった。全職員で日頃から生徒に寄り添った教育活動を実践できている。	B	・今後も自己肯定感を高めるための教育を推進し、自他を大切にすることを育ててほしい。	
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・全職員が、生徒に寄り添いながら教育活動を行っている。また、生徒会を中心に、生徒が自主的に各活動に取り組むことができています。生徒会活動が活発化している。 ・生徒の問題行動が減少している一方、不登校生徒の増加が大きな課題である。SC・SSW・関係機関と連携を図りながら、一人ひとりへの対応を行っていく必要がある。 ・各クラス、授業に落ち着いて取り組めているため、今後も学力向上のために授業改善を図っていく必要がある。
--------------------	--